

2020（令和2）年度前期

弘前学院大学

「学生による授業評価アンケート調査」

実施結果報告書

まえがき

学生による授業評価は、大学の教育研究の自己点検・評価の重要な一項目と位置づけられ、とくに「21世紀の大学像と今後の改革方策について」（大学審議会答申 1998年）等によって一層の強化が促され、大学設置基準の改正にともない、現在ではこの実施と結果の公表が義務づけられている。

学生による授業評価アンケート調査は、本学では従来、学部単位では実施してきており、相応の実績があったのであるが、全学統一的に実施するのは、今回が初めてである。

全学的に実施するにあたり、設問項目については、各学部で行ってきた調査との連続性・継続性を考慮して、各学部の設問を踏まえたうえで設定した。実施対象は原則として全授業科目としている。これによって本学の教育の有効性を検証するとともに、外部への説明責任を果たすべく、この結果を公表するものである。

今後は全学、各学部ともに、この結果を踏まえて一層の改善への工夫を図らなければならない。

目次

- I 「学生による授業評価アンケート調査」実施要項 (1)
- II 「学生による授業評価アンケート調査」実施細目 (3)
- III 実施結果 (5)
- IV 資料：アンケート調査票 (20)

I 「学生による授業評価アンケート」実施要項

はじめに

「大学 FD 委員会」規程第 5 条に基づき、本学の教育の質保証に係る取組の一環として、全学部の全授業科目を対象とした学生による授業評価を実施することとし、その実施に関する事項を本実施要項において定める。

なお、実施上の具体的な運用方法、項目等については「学生による授業評価アンケート実施細目」（以下 実施細目）において定める。

1. 目的

学生による授業評価をアンケートによって行い、その結果を教員にフィードバックすることによって、授業方法、授業内容の充実・改善を図り、教員の資質向上をめざすとともに、授業方法・内容の充実・改善によって、学生の学修効果の向上を図ることを目的とする。

2. 評価項目、設問内容

アンケートの評価項目、設問内容は次のとおりとする。

- (1) 授業に対する学生の姿勢、取組、自己評価について
- (2) 授業の方法、担当教員の授業に対する姿勢、取組について
- (3) 授業内容について

具体的な設問については、別紙「学生による授業評価アンケート」調査票」のとおりとする。

3. 授業評価アンケート調査の進め方および評価対象授業科目

評価対象授業科目は、本学開講のすべての授業科目を原則とするが、アンケート調査の進め方については、一定期間内における集計、統計的処理、分析等の処理能力を考慮し、複数年に分けて実施するものとする。その具体的な方法は「実施細目」において定める。

4. 調査時期

調査時期は、前期開設科目については前期終了前 2 週間、後期開設科目については後期終了前 2 週間とし、通年開講科目については後期終了前 2 週間とする。

5. 調査方法

各授業科目を通じてアンケート用紙を配布し、回収する。

6. 結果の活用

結果の活用については、評価結果を各教員にフィードバックし、教育方法、授業内容の充実・改善に資するためのFD研修を実施するとともに、各教員は、授業の充実・改善案を作成するものとする。また、授業評価において高い評価を得た教員を顕彰する。

以上の活用についての具体的方法は別に定める。

7. 結果の公表及び開示

本アンケート調査結果については「弘前学院大学IR室規程」第2条に基づき、その内容の開示・公表を行うものとする。

またアンケート調査の全体的集計結果は、本学ホームページに掲載し、学内外に公表するものとする。その具体的項目等については「実施細目」において定める。

授業科目ごとの結果の学生への開示については、IR室において定める。

8. 調査主体

大学FD委員会。

9. 実施体制

弘前学院大学FD委員会及び各学部FD委員会

II 「学生による授業評価アンケート」実施細目

はじめに

「学生による授業評価 実施細目」は、「学生による授業評価実施要項」に基づき、その実施上の運用方法、項目等について具体的に定めるものである。

1. 授業評価アンケート調査の進め方および評価対象授業科目

(1) 授業評価調査の進め方

本アンケート調査は、本学開講の授業科目のすべてを、4か年に分けて実施する。

(2) 初年度・2020年度以降における調査対象授業科目

担当授業科目を4か年に分けるが、その場合、年度、学期等偏らずにできるだけ分散させるようにする。

(参考) 履修者数の多い講義、演習科目を中心に、初年度は、前期に講義、演習の任意の2～3科目を、後期も同様に選択する。次年度以降、原則としてこれを繰り返す。

(3) 評価対象除外科目

原則として、実施年度において開講している授業科目のすべてとするが、次の科目はその対象から除外する。

(1) 卒業研究・卒業論文

当該科目は独立した授業科目ではあるが、その教育・指導の実態は通常の授業科目とはまったく異なり、教員と学生とが1対1での緊密かつ継続的な指導となることが通常のあり方であり、他の授業科目の評価方法にはなじまない面がある。さらに、アンケートの設問内容もこうした卒業研究の実態とは齟齬を来すものである。

(参考) なお当該科目は文学部および看護学部においては必修科目であるが、社会福祉学部においては科目自体が設置されていない。

2. 評価項目、設問内容

アンケートの具体的な設問については、別紙「学生による授業評価アンケート」調査票」のとおりとする。

3. 調査方法

各授業科目を通じてアンケート用紙を配布し、回収する。

4. 結果のフィードバック

評価結果は、授業方法、授業内容の改善に資するため、各教員にフィードバックするが、その項目は下表のとおりとする。

| 設問 | 科目名 | 登録者数 | 回答者数 | 回答率% | 平均値 | | | 選択肢回答率 % | | | | |
|----|--------------------------------|------|------|------|-----|----|----|----------|---|---|---|-----|
| | 担当者名 | | | | 科目 | 学部 | 全学 | 4 | 3 | 2 | 1 | 無回答 |
| 1 | この授業（講義・演習・実習・実技）によく出席している。 | | | | | | | | | | | |
| 2 | シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている。 | | | | | | | | | | | |
| 3 | (以下略) | | | | | | | | | | | |

5. 結果の公表

アンケートの全体的集計結果は学内外に公表する。その内容・方法は、設問1～18の各問について、全学・各学部の平均値、設問選択肢の各学部の分布等を、図表・グラフによって視覚化し、ホームページに掲載する。

Ⅲ 実施結果

1. 調査対象授業科目

「実施要項」および「実施細目」により、全授業科目を4か年に分けて順次実施することとしたが、今回は2020（令和2）年度前期実施分の結果を示すこととする。

学部ごとの実施科目数・登録者数・回答数・回収率は次表のとおりである。

| 学部 | 実施科目数 | 登録者数 | 回答数 | 回収率 |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 文学部 | 52 | 1,594 | 1,413 | 88.6% |
| 社会福祉学部 | 23 | 746 | 603 | 80.8% |
| 看護学部 | 9 | 374 | 341 | 91.2% |
| 合計 | 84 | 2,714 | 2,357 | 86.8% |

2. 設問の内容について

設問では、次の3つの側面から尋ねた。A・B・C各6問、合計18問である。

- A 学生自身の自己評価
- B 授業担当者の授業方法・姿勢に対する評価
- C 授業内容に対する評価

3. 集計結果について

以下に集計結果を示す。

各問に4つの回答選択肢（4・3・2・1）を設けたが、それぞれの選択肢の回答率（%）を、学部ごとに図表化したものである。

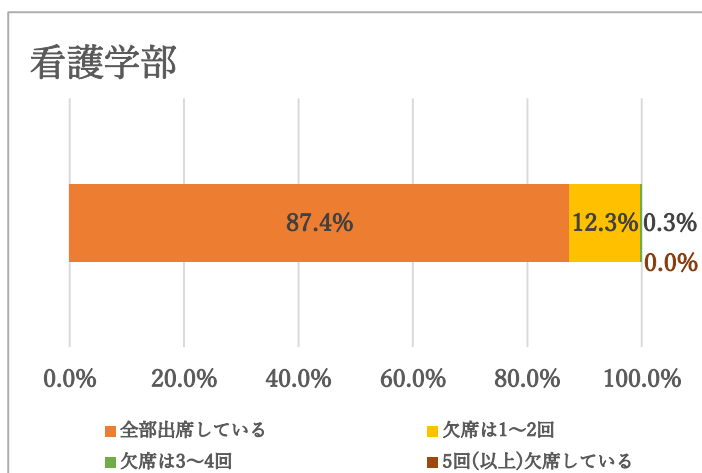
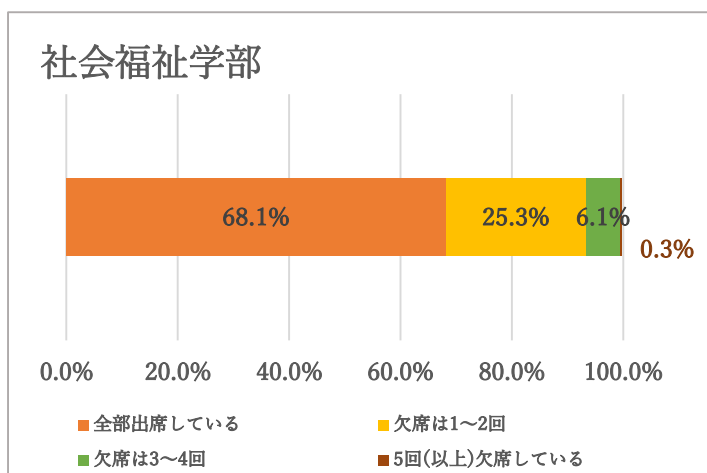
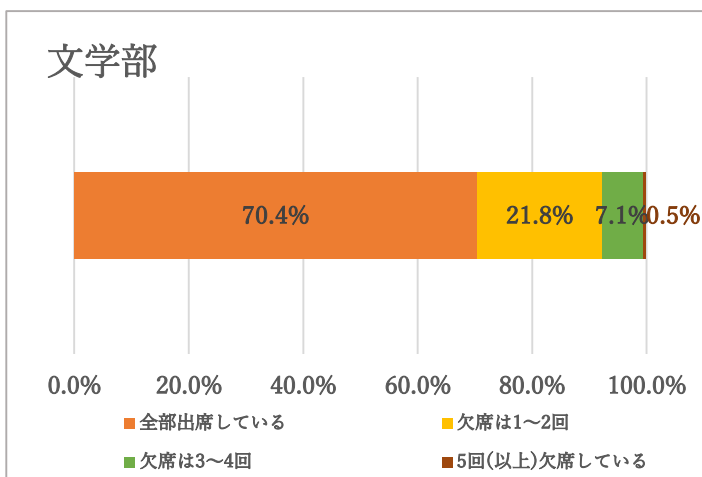
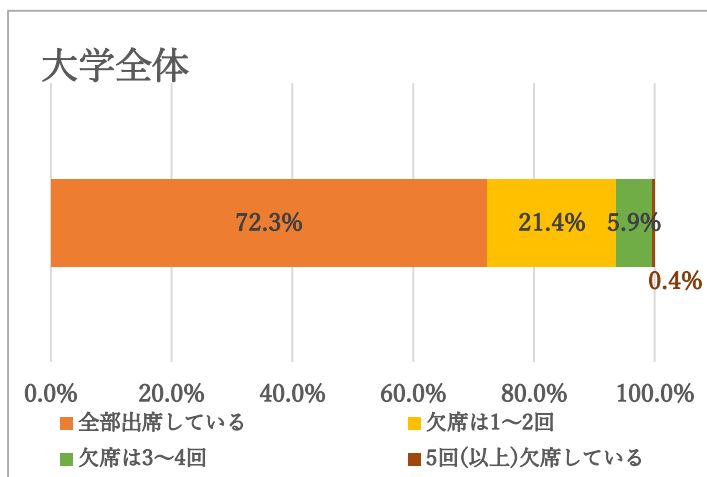
A 学生自身の自己評価

以下の6問は、授業への姿勢や取り組み度についての学生自身の自己評価である。

- ・なお、問01の設問に対する回答選択肢は、出席（・欠席）の度合いである。
- ・また、問02以下、最後の18問までの回答選択肢は、肯定的から否定的への段階的評価である。

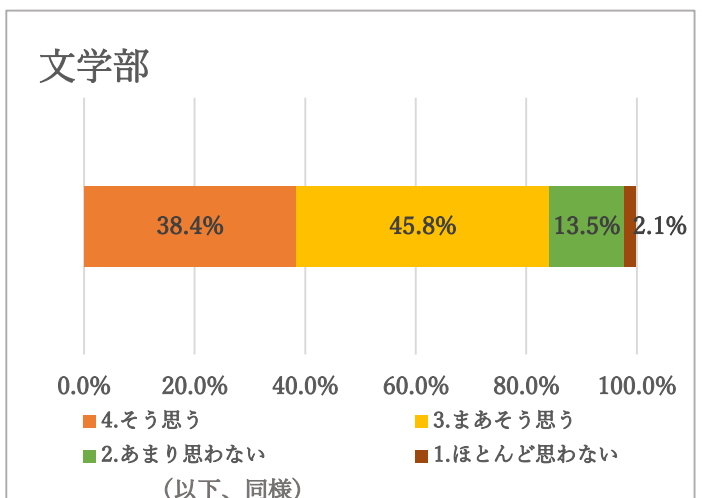
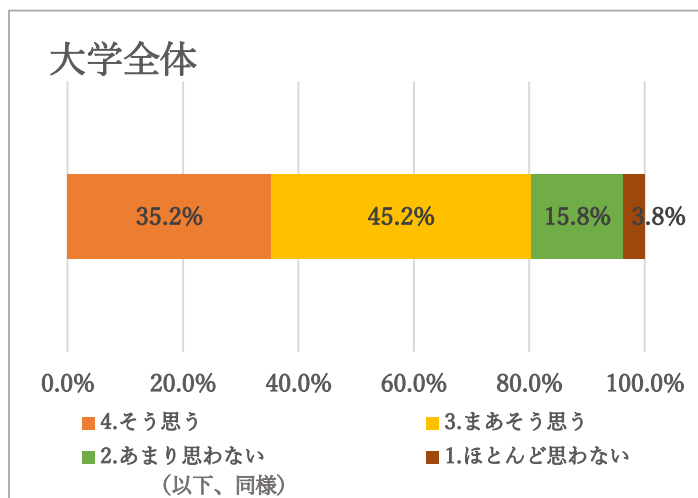
問1 この授業(講義・演習・実習・実技)によく出席している

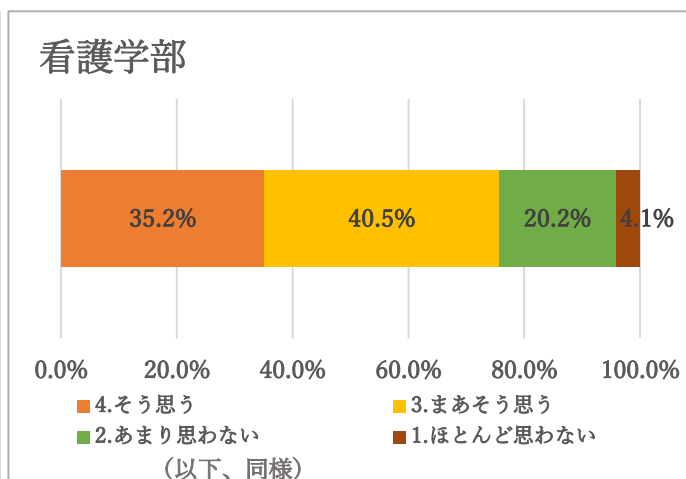
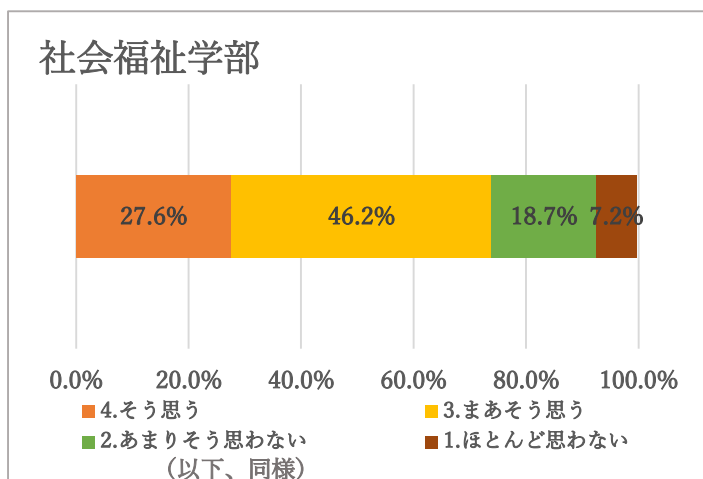
- 4. 全部出席している
- 3. 欠席は1～2回
- 2. 欠席は3～4回
- 1. 5回(以上)欠席している



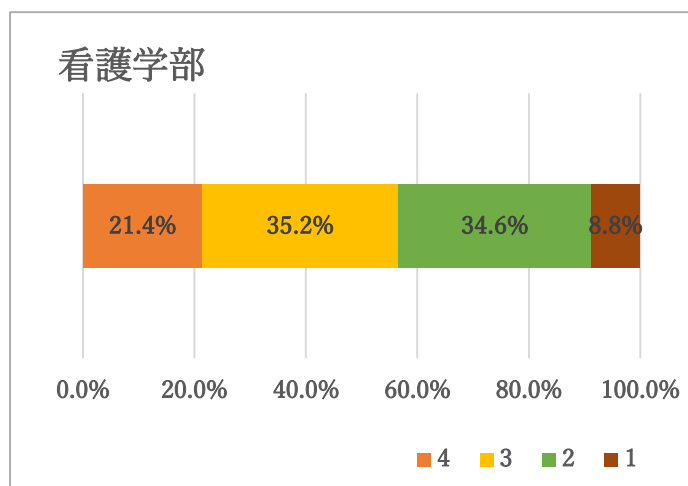
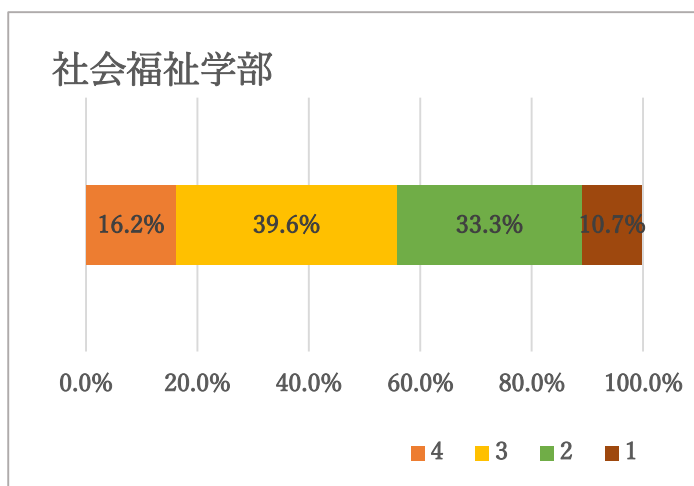
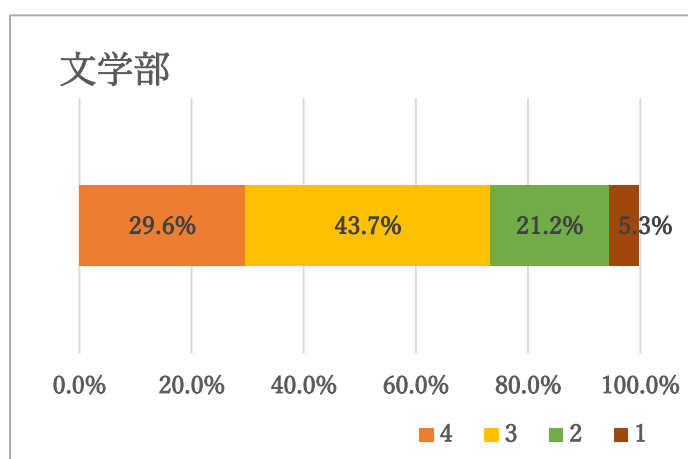
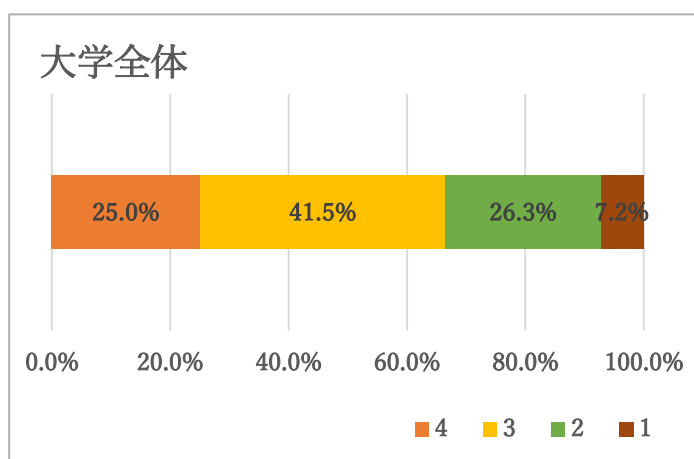
問2 シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている

4. そう思う 3. まあそう思う 2. あまり思わない 1. ほとんど思わない
(以下 同様)

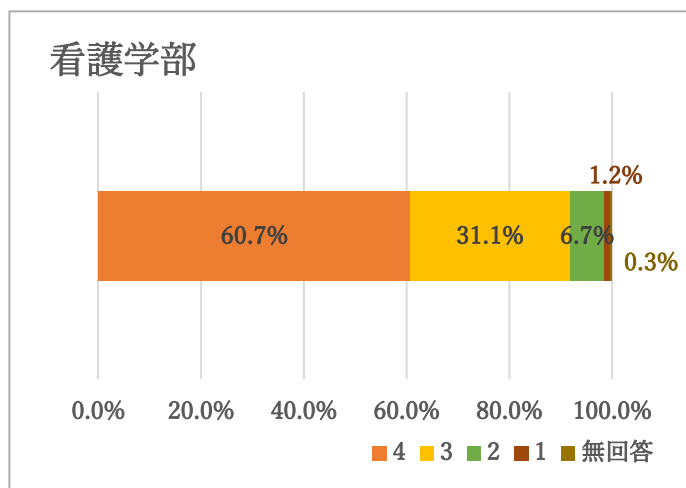
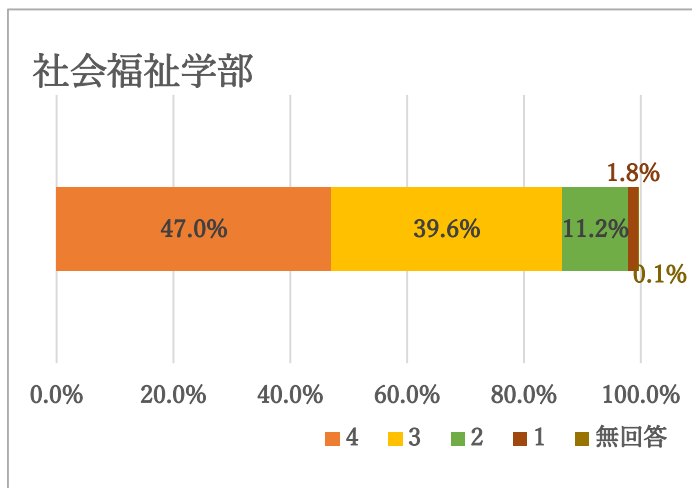
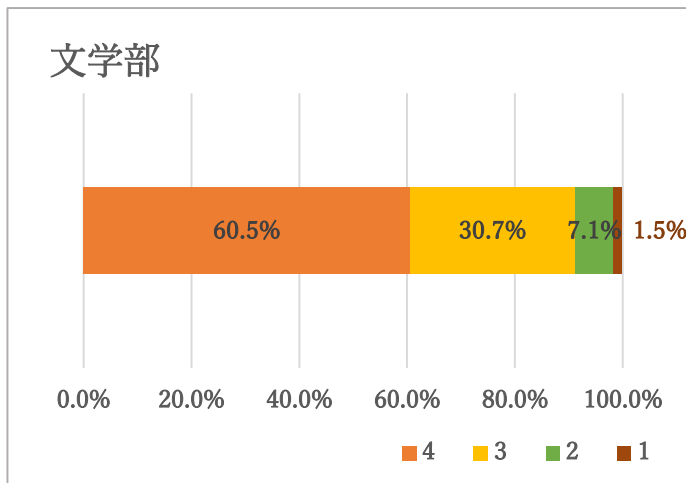
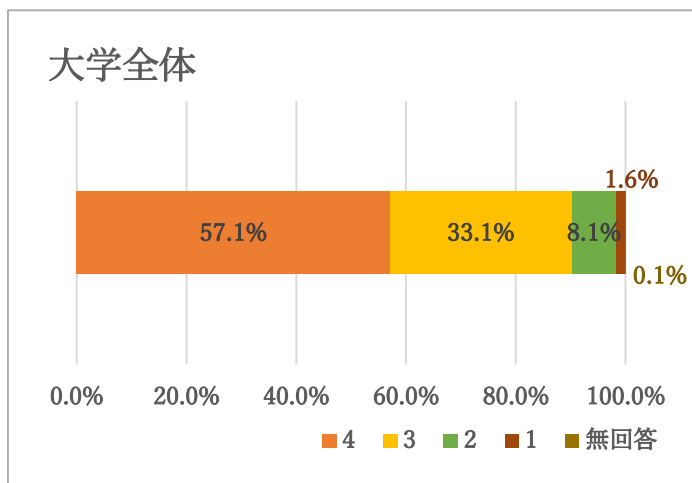




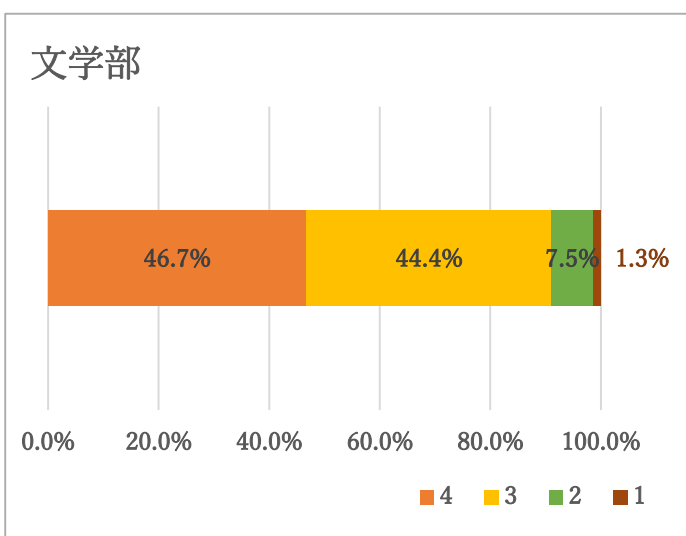
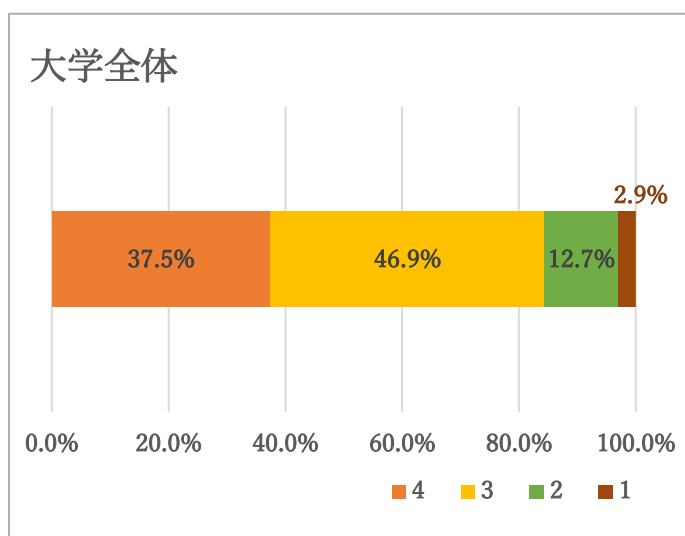
問3 この授業の受講にあたって、事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる

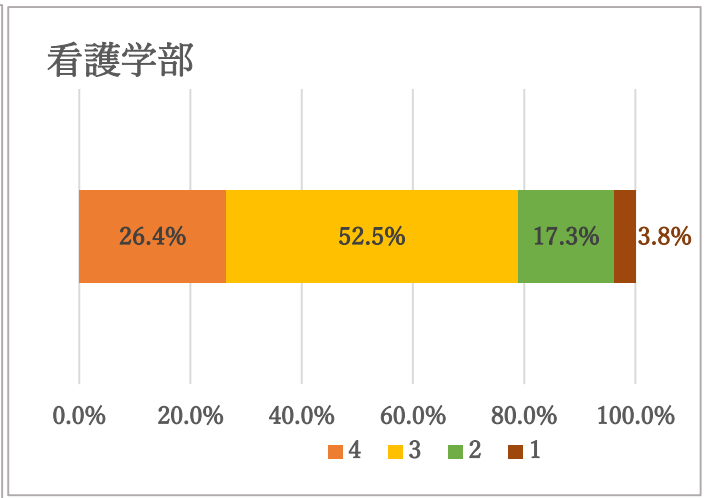
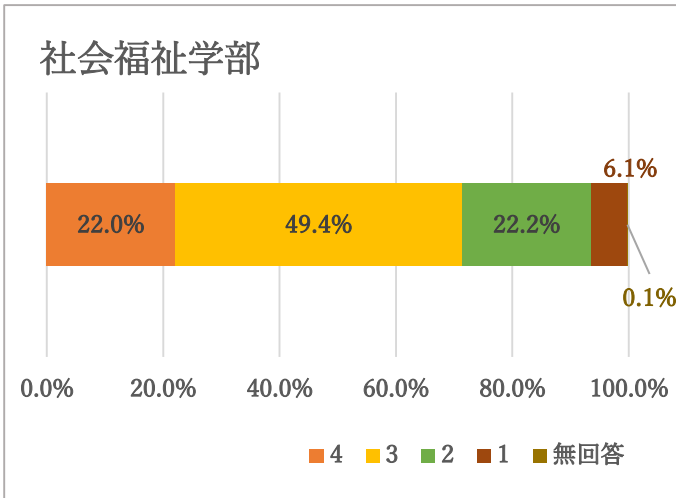


問4 課題・発表・レポート・試験準備などに取り組んでいる

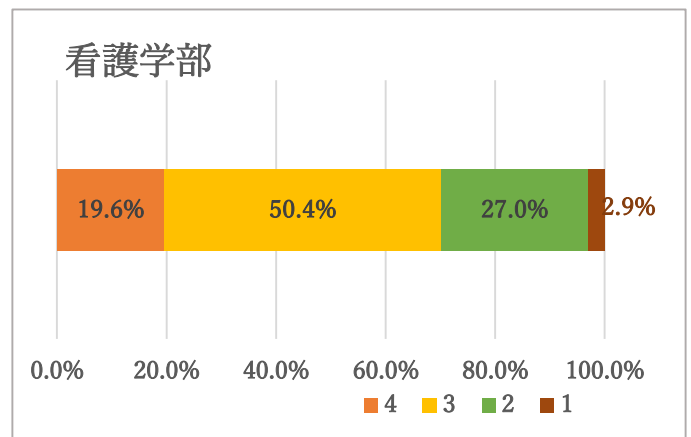
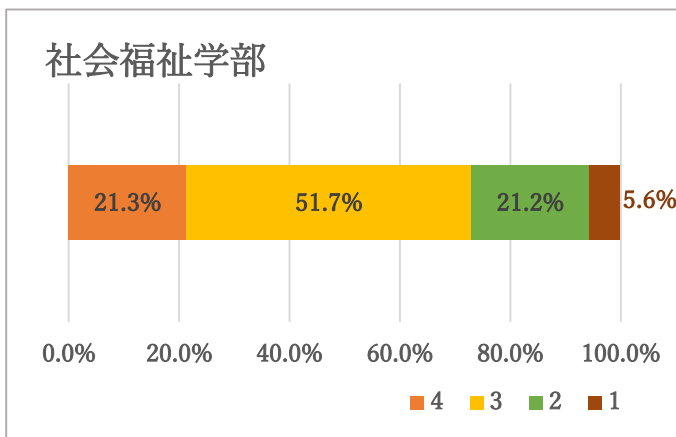
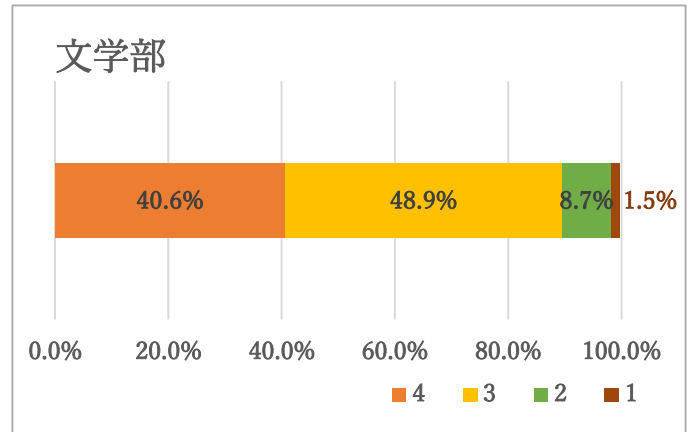
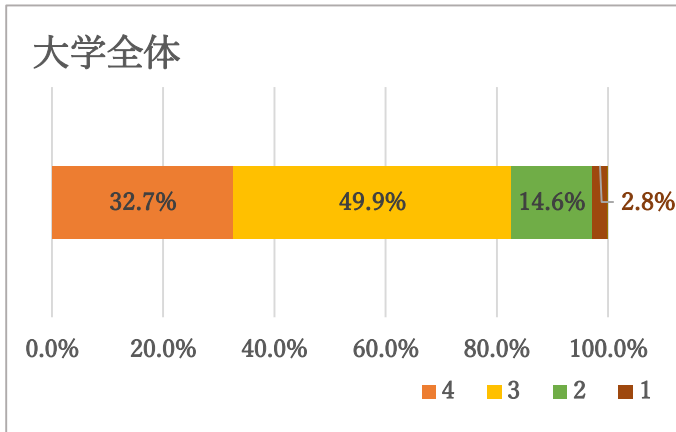


問5 この授業の内容について、十分に理解することができている





問6 シラバスに記載された到達目標を達成できると思う



問01 授業への出席度

全設問の中で全学平均値が3.7と最高であり、学部ごとの分布においても、「4. 全部出席」と「3. 欠席1~2回」とを合わせた割合は、3学部とも9割超となるので、極めて良い結果である。

問 02 シラバス記載の到達目標や評価方法の認知度

全設問の中で全学平均値が 3.1 と下位 2 番目であり、授業の到達目標や成績評価方法があまり読まれていない現状である。学部ごとの分布においても、「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合が 8 割に達していない学部もある。

問 03 事前・事後学修への取組度

全設問の中で全学平均値が 2.8 と最低であり、事前・事後学修の重要性が意識されていない現状である。学部ごとの分布においても、「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合が 6 割に達していない学部もある。これは単位の実質化に関わる取組なので、この実態は憂慮すべきである。

問 04 課題、発表、レポート、試験準備などへの取組度

全設問の中で全学平均値の 3.5 は 3.7 に次ぐ上位 2 番目の数値である。学部ごとの分布においても、「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合が約 9 割台なので、悪くはないであろう。

問 05 授業の理解度

全設問の中で全学平均値の 3.2 は下位 3 番目である。学部ごとの分布においては、「2. あまり思わない」と「1. 思わない」の授業理解度の否定的評価を合わせた割合が 2 割、3 割に達する学部もある。

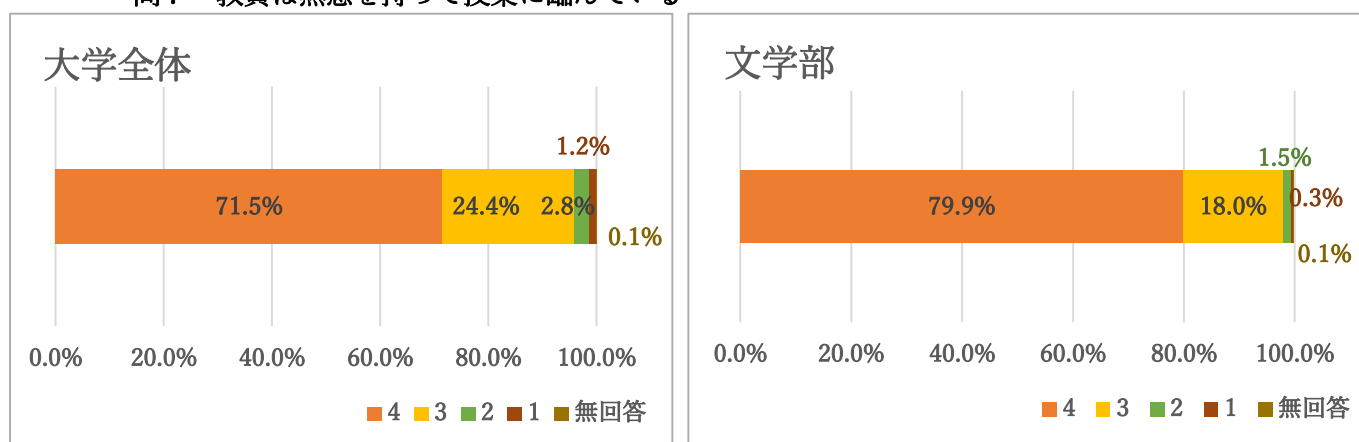
問 06 授業の到達目標の達成への見通し

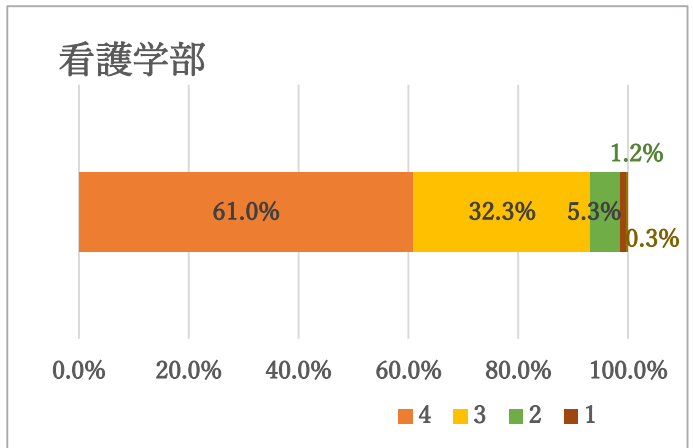
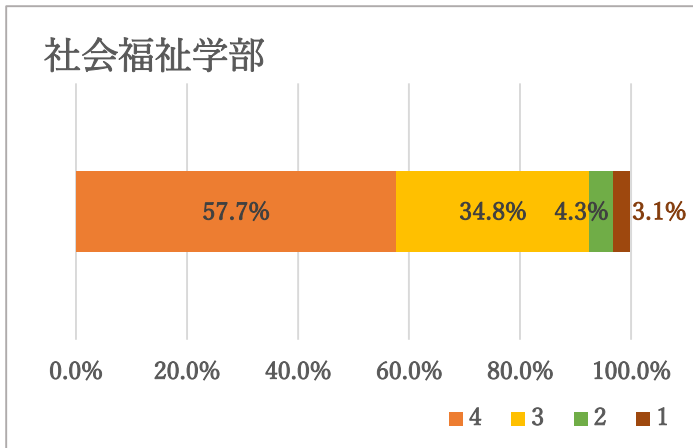
全設問の中で全学平均値が 3.1 と下位 2 番目であり、問 02 の、到達目標の認知度の低さと連動して低い数値となっている。学部ごとの分布においても、「2. あまり思わない」と「1. 思わない」の否定的評価を合わせた割合が約 3 割に達する学部もある。

B 授業担当者の授業方法・姿勢に対する評価

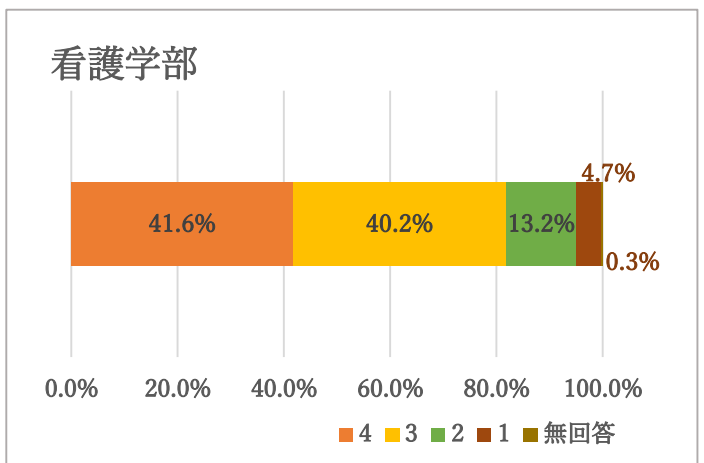
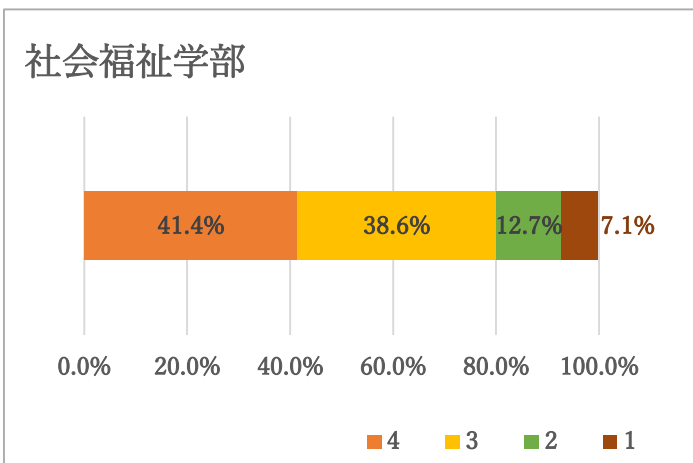
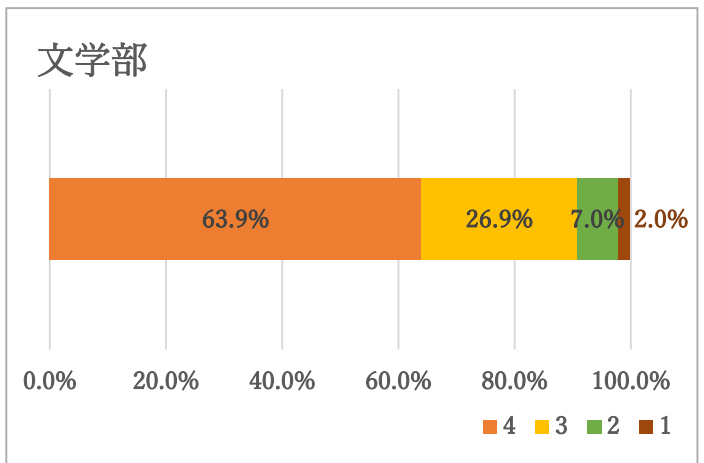
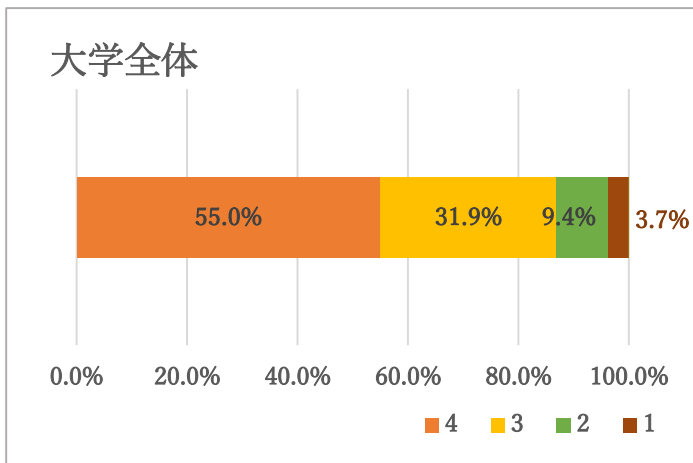
以下の 6 問は、授業担当者の、授業への姿勢や取り組み方についての評価である。

問 7 教員は熱意を持って授業に臨んでいる

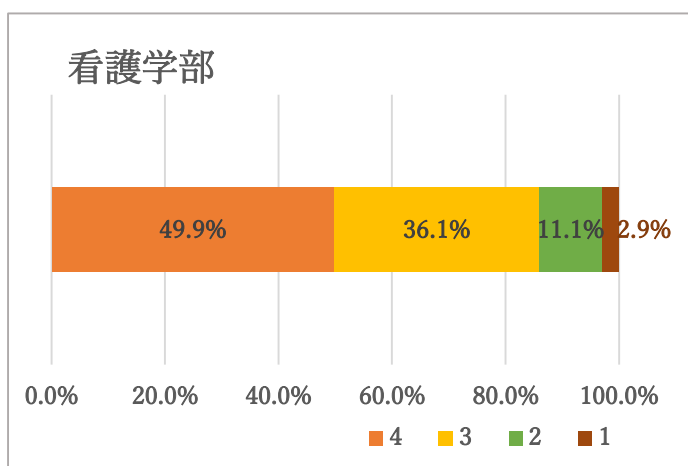
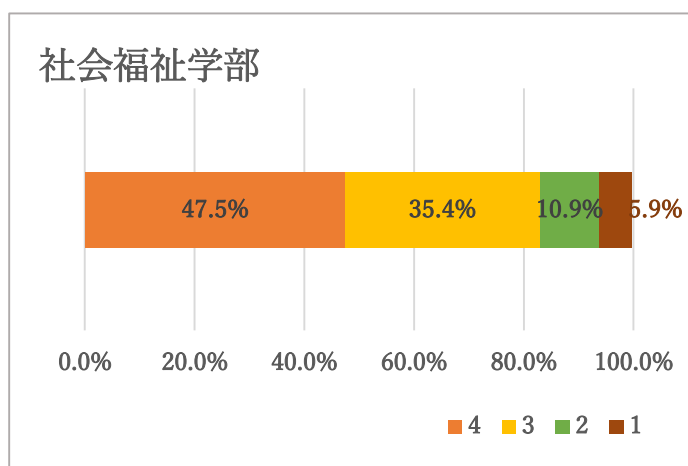
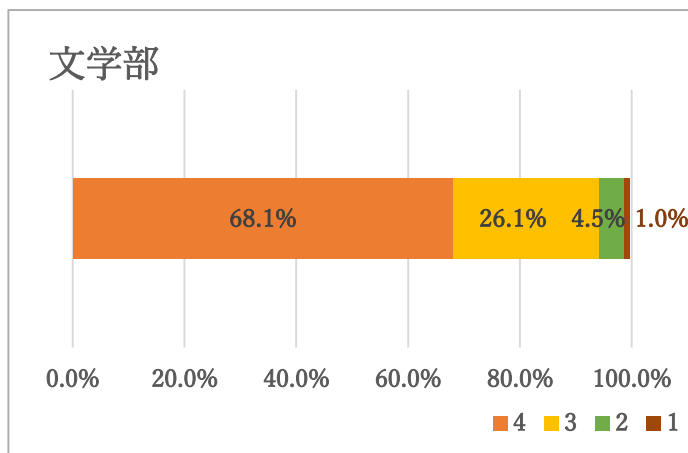
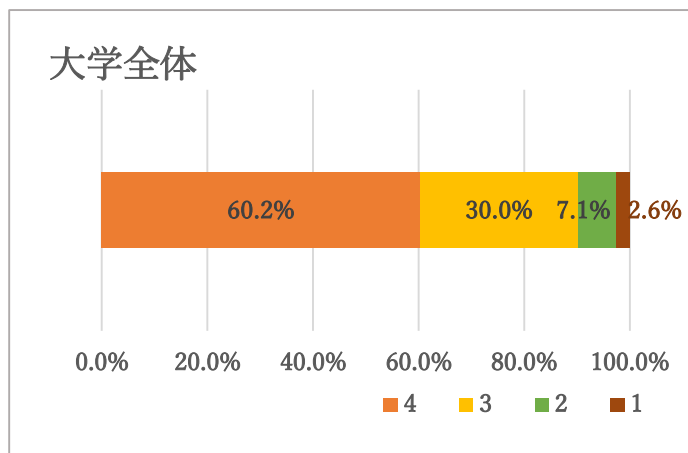




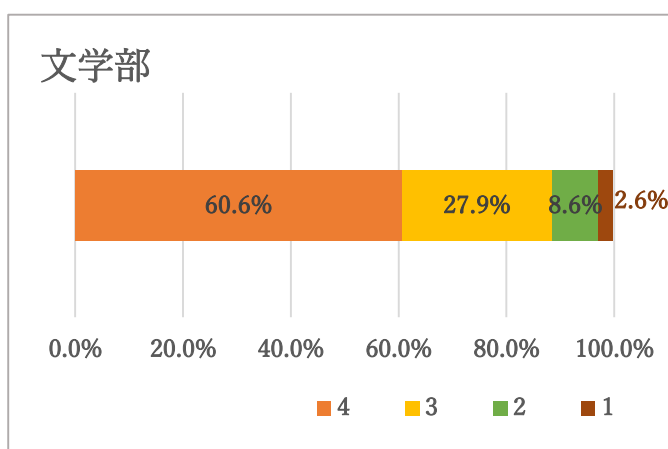
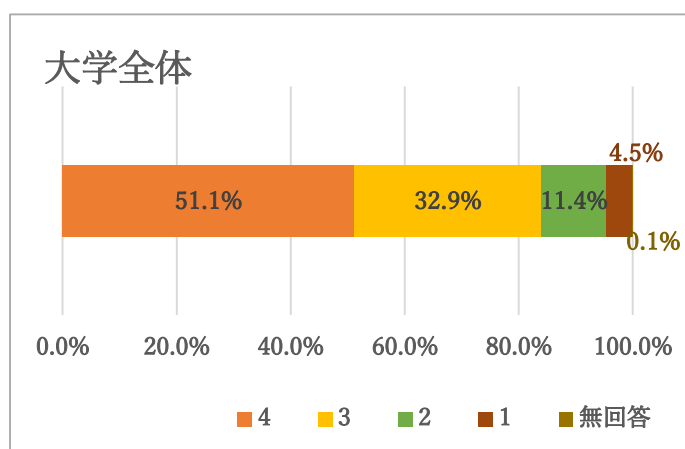
問8 学生の理解度や反応を考慮して授業を行っている

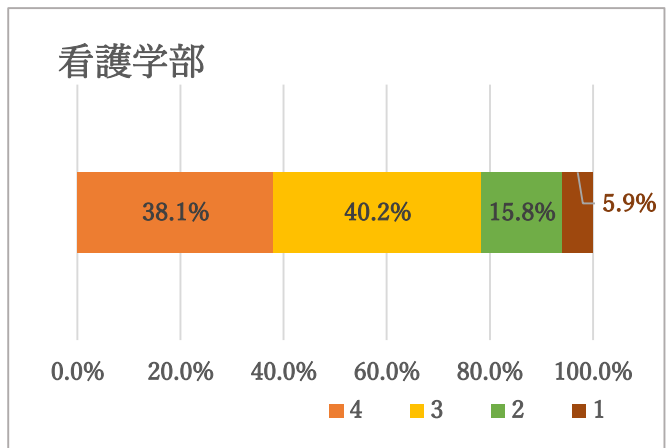
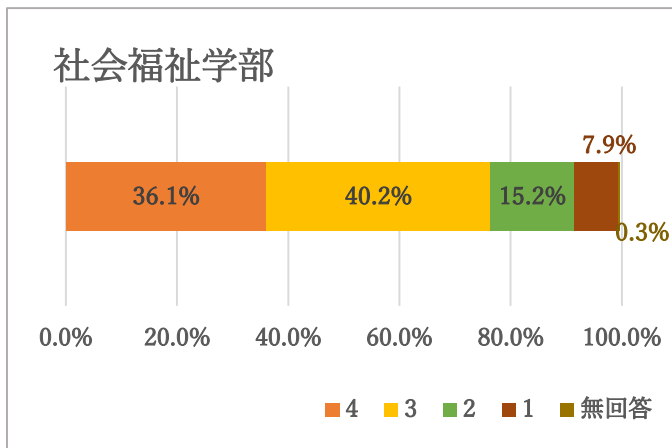


問9 教員は、学生の質問や意見に適切に対応している

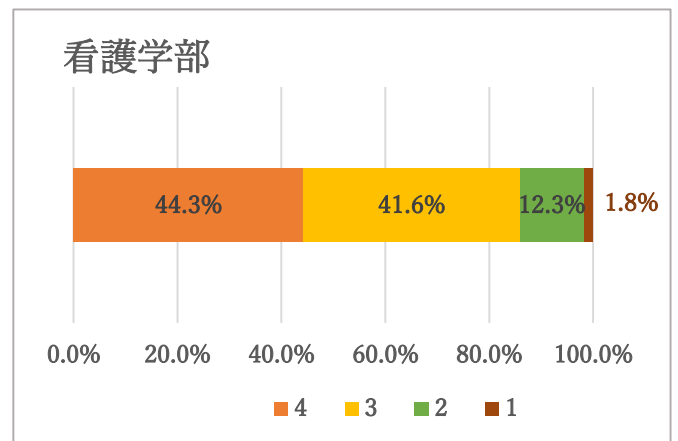
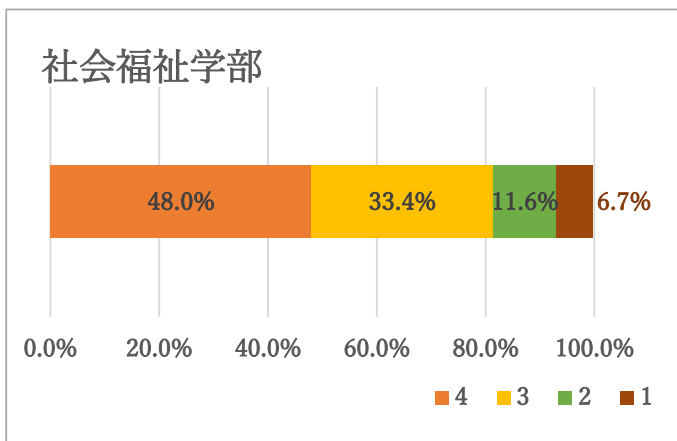
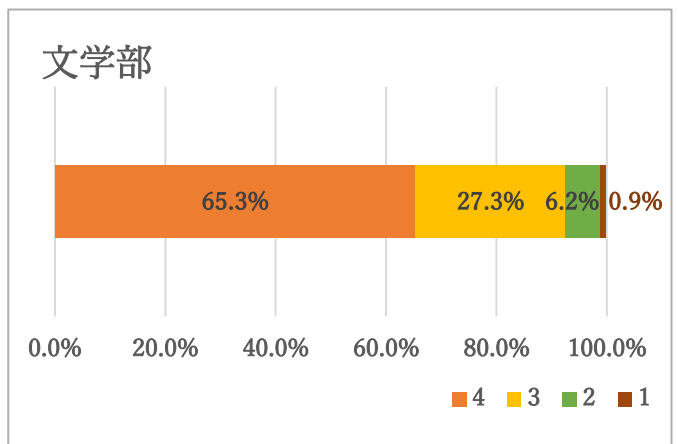
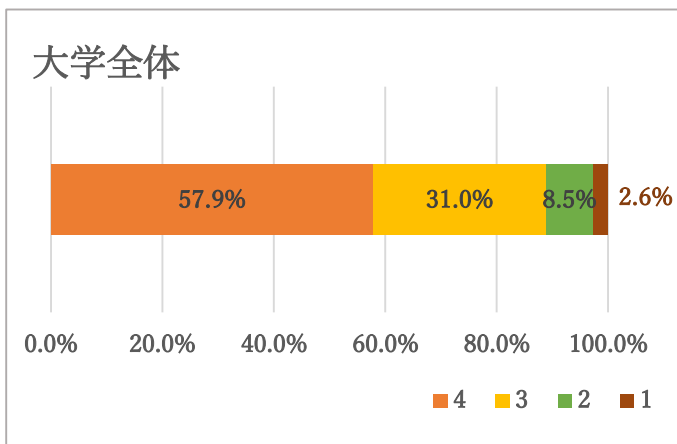


問10 教員は、提出したレポートや課題をチェックして学生に返し、授業の理解に役立てようとしている

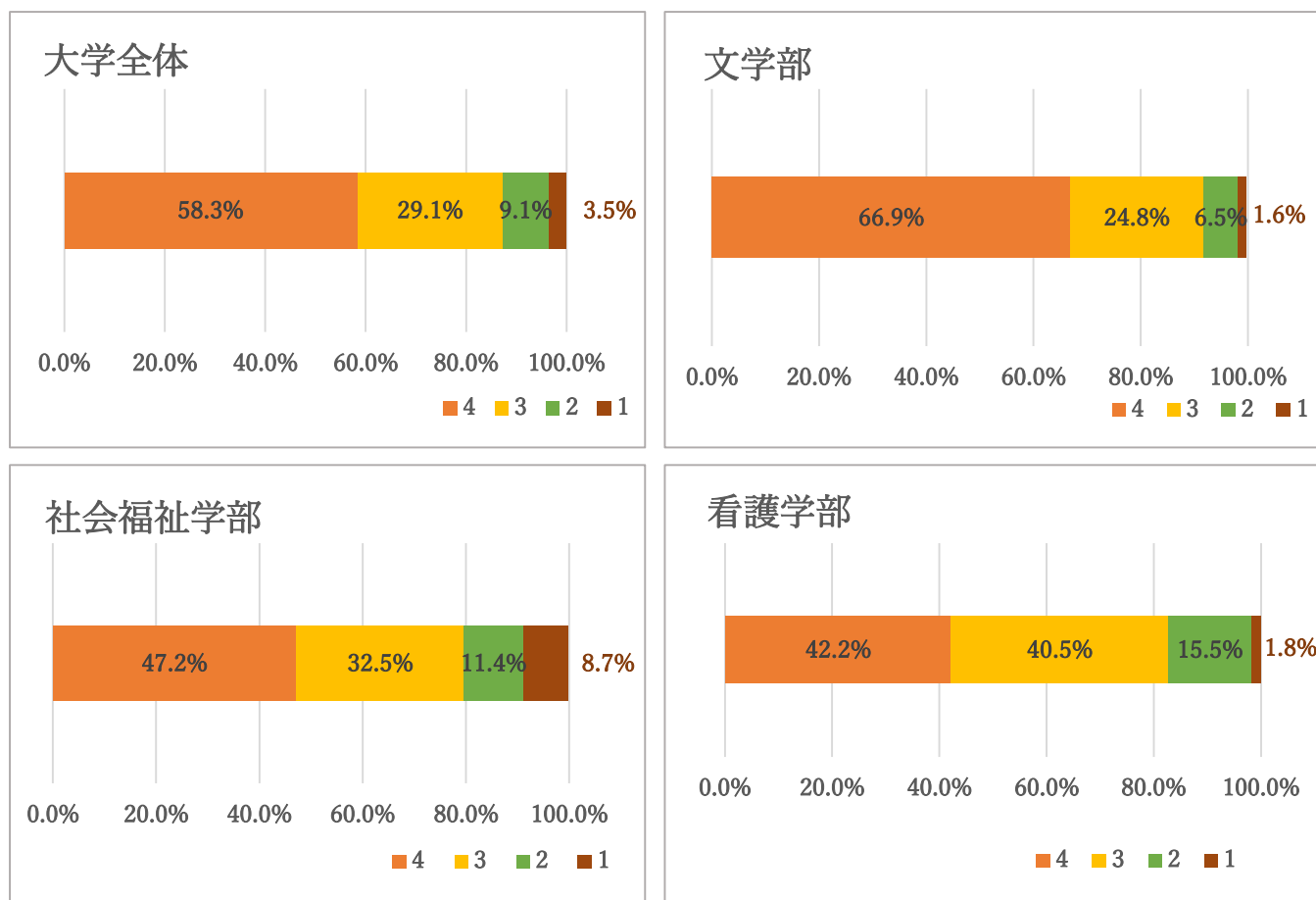




問 11 教員の授業方法や使用した教材は、授業の内容の理解に役立つよう工夫されている



問 12 教員の話し方、言葉は聞き取りやすい



問 07 授業への教員の熱意

全設問の中で全学平均値が 3.7 と最高であり、学部ごとの分布においても、「4. そう思う」と「3. まあそう思う」とを合わせた肯定的評価割合は、3 学部とも 9 割超となるので、極めて良い結果である。

問 08 学生の理解度や反応への考慮

全設問の中で全学平均値の 3.4 は 3.7、3.5 に次ぐ上位 3 番目の数値である。学部ごとの分布においても、「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合が 8 割、9 割台なので、かなり良いと思われる。

問 09 学生の質問、意見への対応度

全設問の中で全学平均値の 3.5 は 3.7 に次ぐ上位 2 番目の数値である。学部ごとの分布においても、「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合が 9 割、8 割台なので、悪くはないであろう。

問 10 レポートや課題のフィードバック

全設問の中で全学平均値の 3.3 は全体の中間的位置の数値であり、問 08、問 09 には及ばない評価である。学部ごとの分布においても、「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合が 8 割に届かない学部もある。

問 11 授業内容理解のための授業方法、使用教材の工夫

全設問の中で全学平均値の 3.4 は 3.7、3.5 に次ぐ上位 3 番目の数値で、問 08 と同じであるが、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合が 8 割台なので、評価がやや低いと思われる。

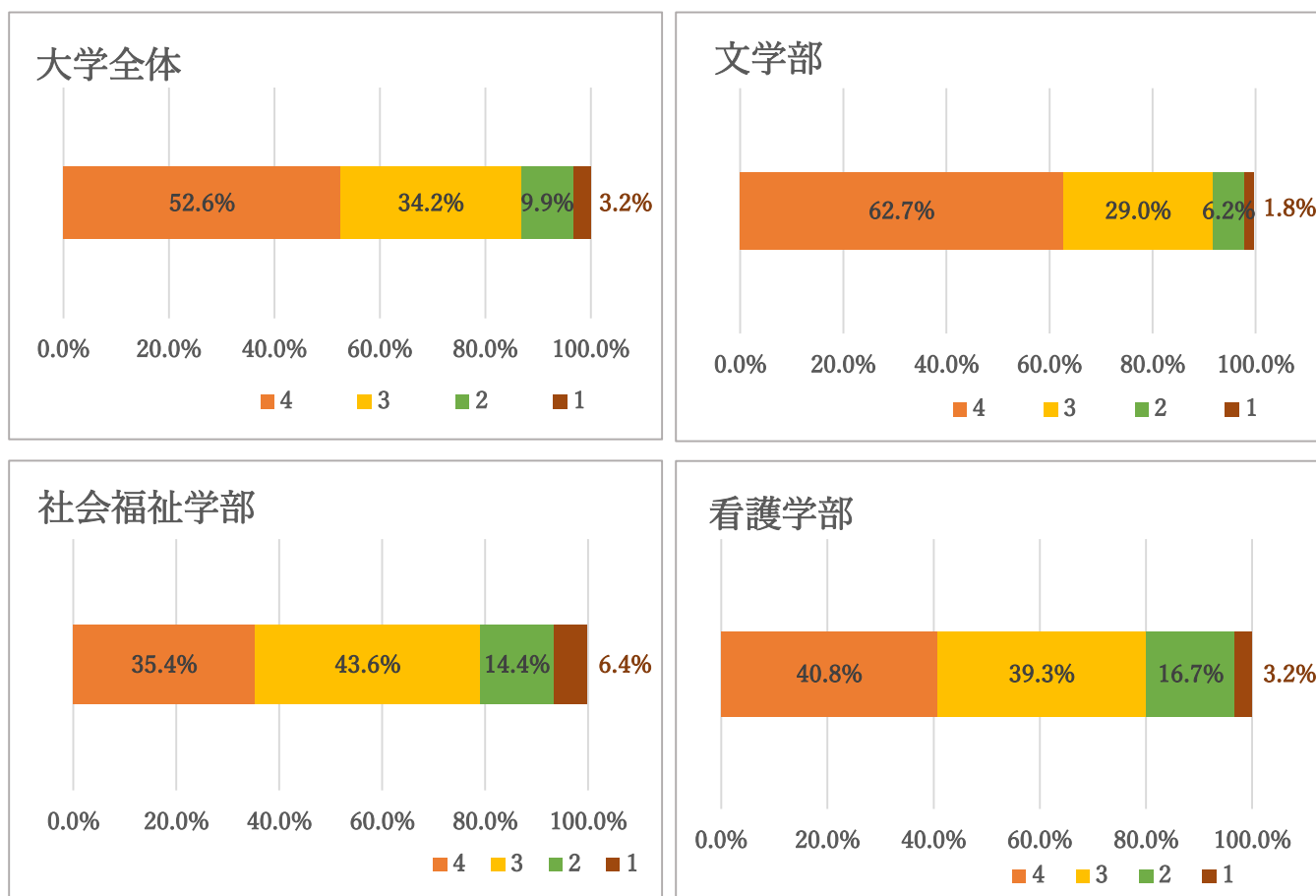
問 12 教員の話し方等の聞き取りやすさ

前問同様、全設問の中で全学平均値の 3.4 は、3.7、3.5 に次ぐ上位 3 番目の数値であるが、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合は学部ごとにばらついている。

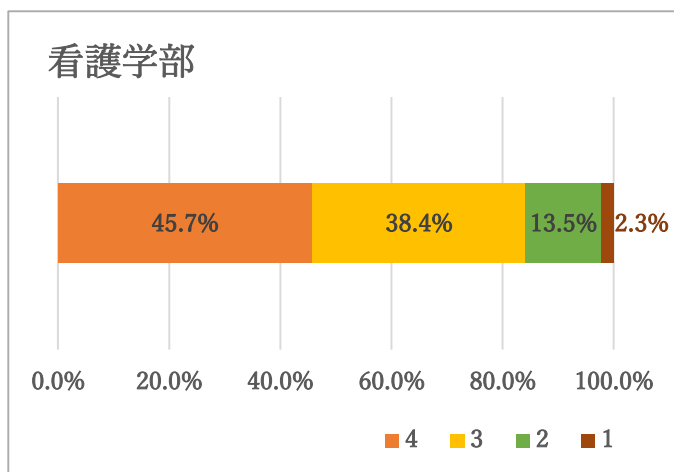
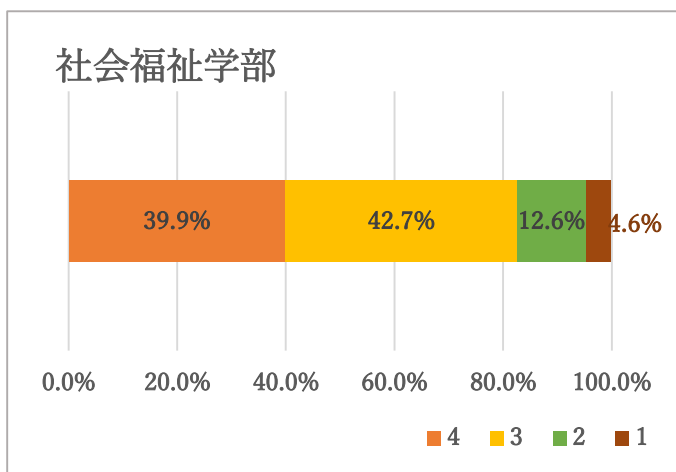
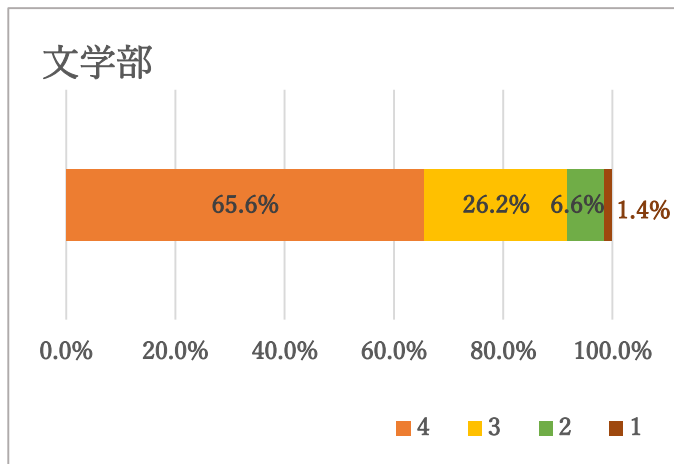
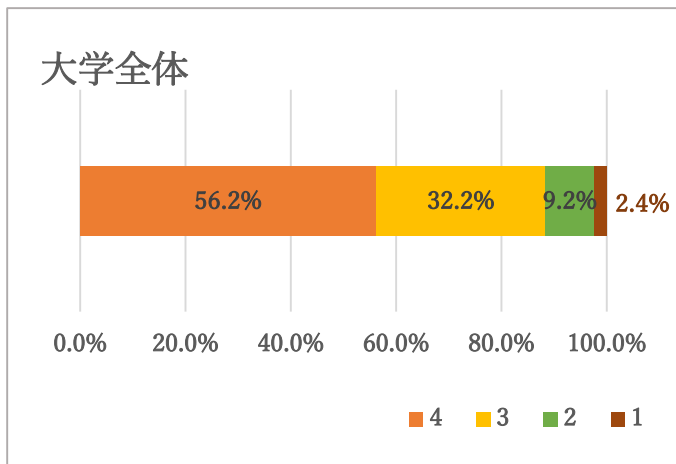
C 授業内容に対する評価

以下の 6 問は、授業内容や授業方法、および満足度等に関する評価である。

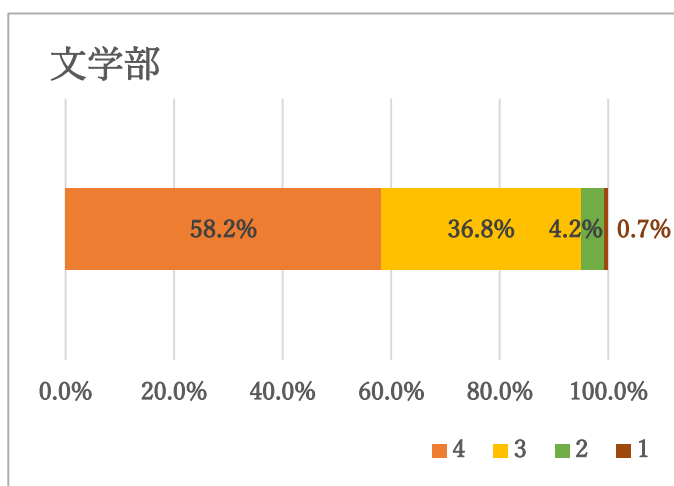
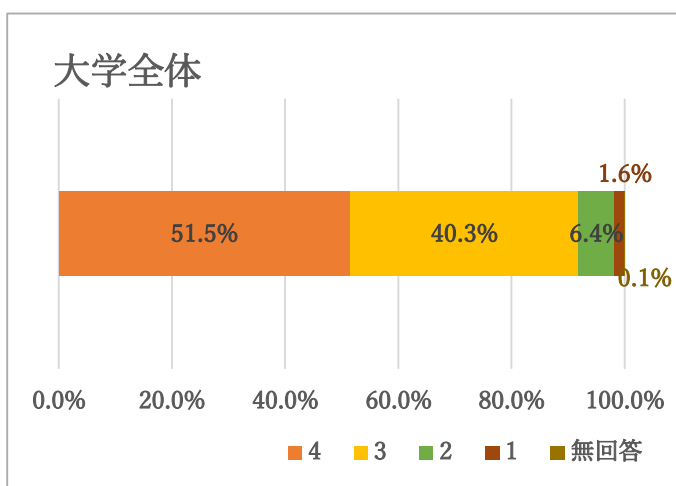
問 13 この授業で扱う量や難易度は適切である

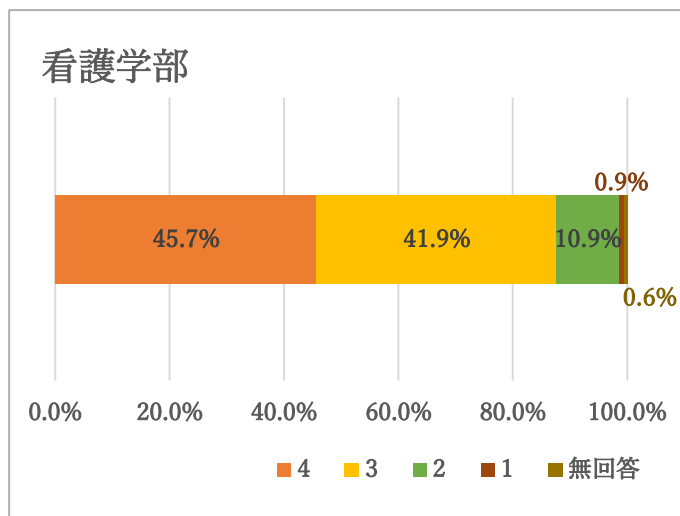
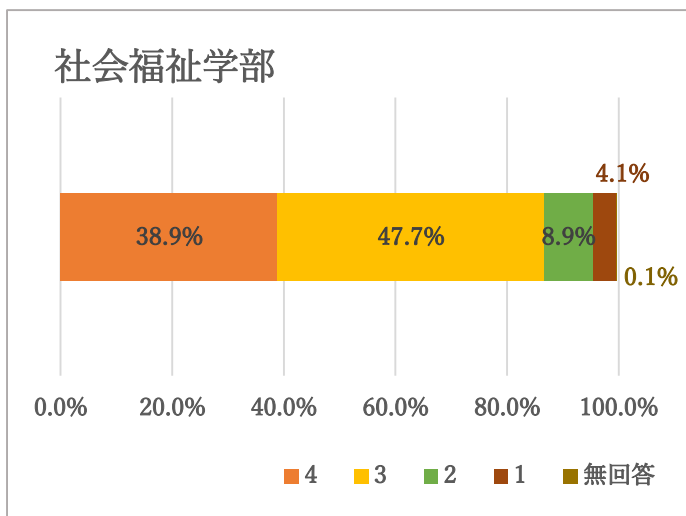


問 14 この授業の進め方のペースは適切である

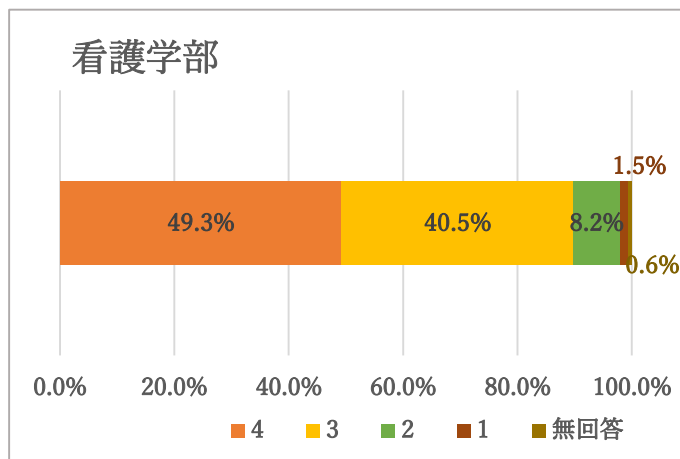
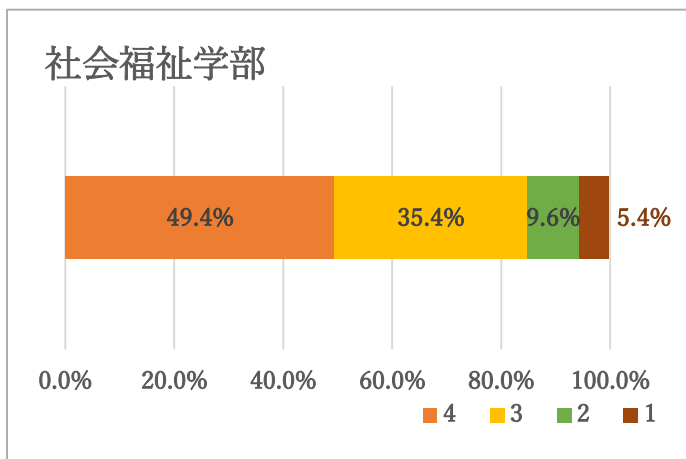
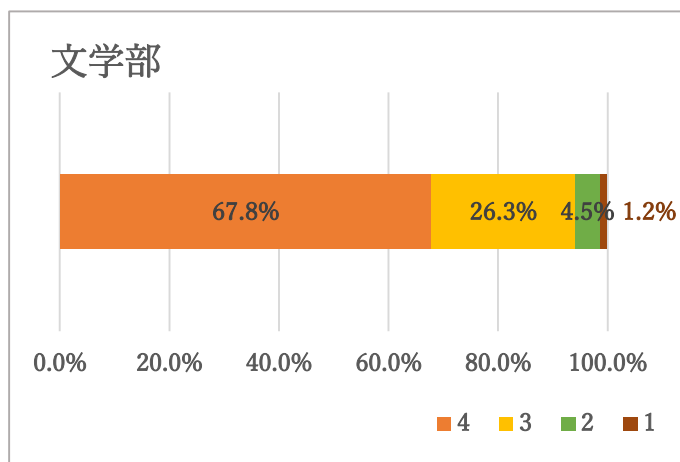
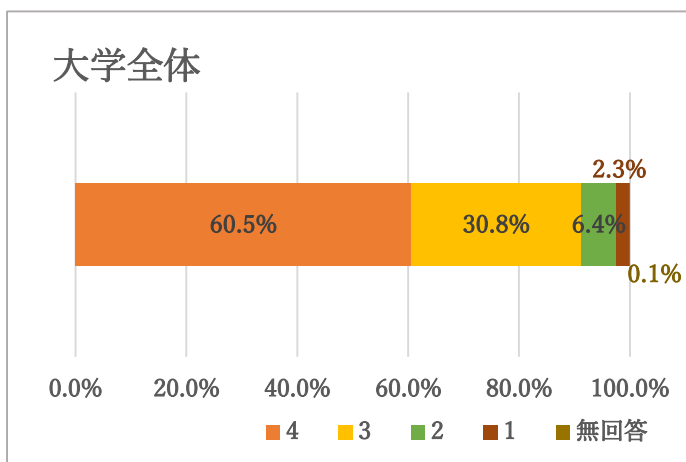


問 15 この授業はシラバスの記載に沿って展開している

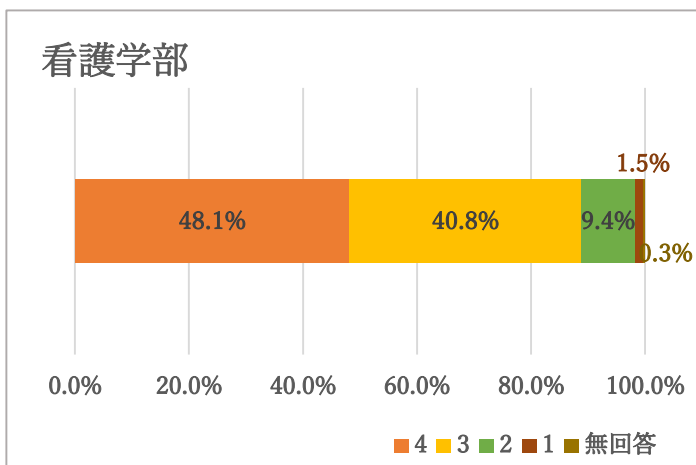
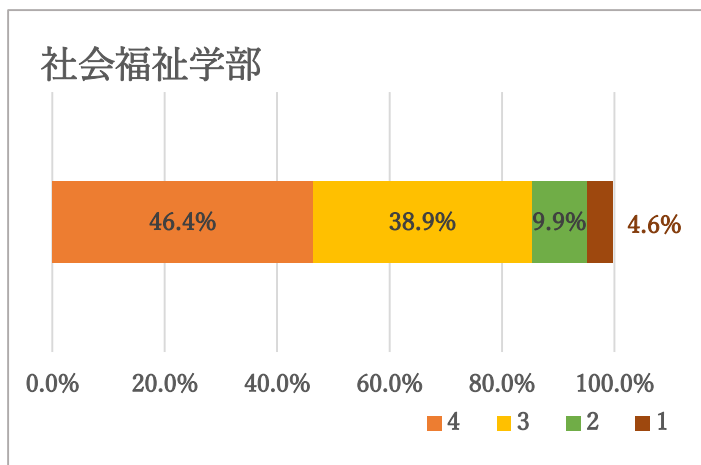
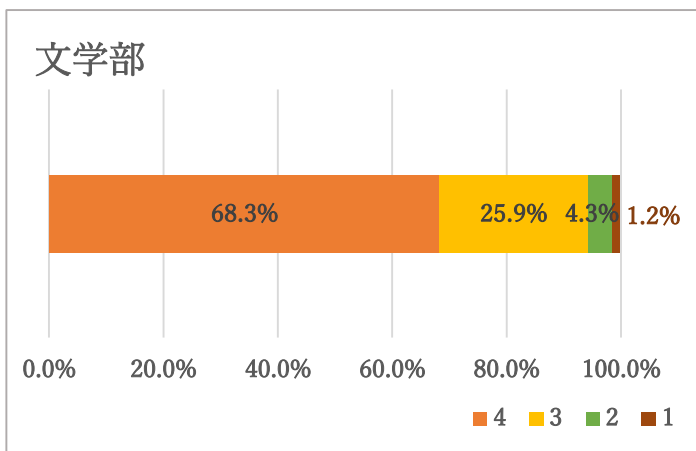
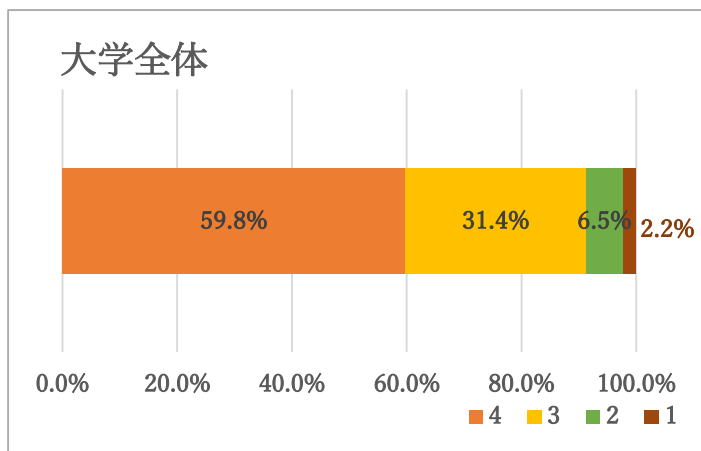




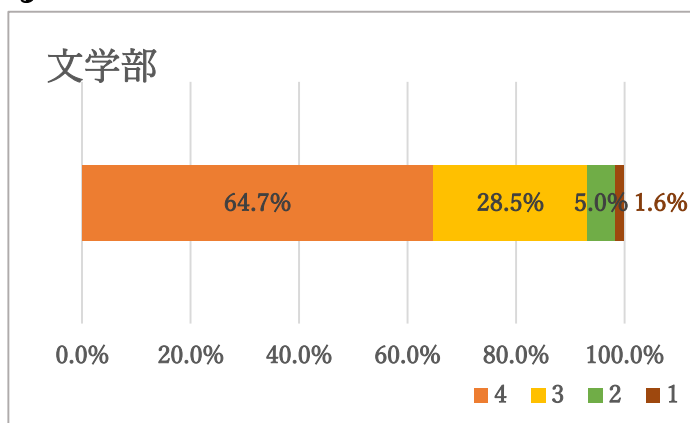
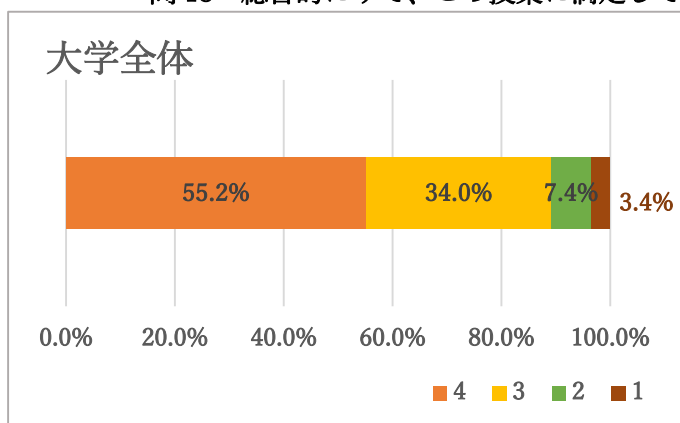
問 16 教科書、資料(ビデオ、スライド、プリント等)、板書は授業内容の理解に役立っている

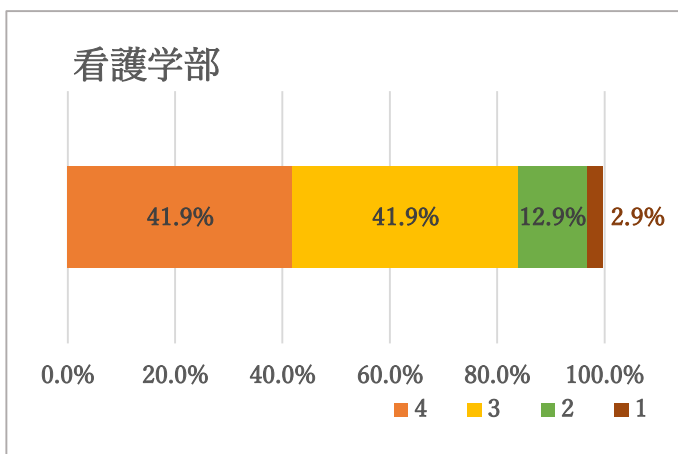
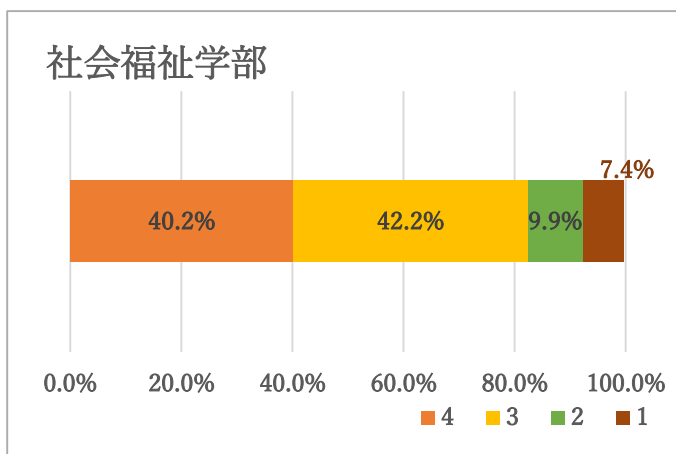


問17 この授業から、新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学ぶことができる



問18 総合的にみて、この授業に満足している





問 13 授業で扱う量、難易度の適切性

前問同様、全学平均値の 3.4 は、3.7、3.5 に次ぐ上位 3 番目の数値であるが、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合は、1 学部が 9 割で、2 学部が約 8 割となっており、悪くない数値であろう。

問 14 授業の進度の適切性

前問同様、全学平均値の 3.4 は、上位 3 番目の数値であるが、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合は、1 学部が 9 割で、2 学部が約 8 割となっており、これも前問同様、悪くない評価であろう。

問 15 授業展開とシラバスの記載内容の対応

これも前問同様、全学平均値の 3.4 は、上位 3 番目の数値であり、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合は、1 学部が 9 割で、2 学部が約 8 割となっており、これも前問同様である。

問 16 教科書、資料、板書の、内容理解への有効性

全学平均値の 3.5 は、上位 2 番目の数値である。また、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合は、1 学部が 9 割超で、2 学部が約 8 割となっており、これも前問同様である。

問 17 授業を通じての新知识・技能、専門的思考・発想の学び

これも前問同様、全学平均値の 3.5 は、上位 2 番目の数値である。また、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合は、1 学部が 9 割超で、2 学部が 8 割超となっており、これも前問同様である。

問 18 授業の満足度

全学平均値の 3.4 は、上位 3 番目の数値であり、学部ごとの分布における「4. そう思う」と「3. まあそう思う」の肯定的評価を合わせた割合は、1 学部が 9 割で、2 学部が約 8 割超となっており、これも前問同様悪くない評価であろう。

このアンケートは、本学の授業の改善や充実のためにおこなうものです。

これは成績評価などには全く関係しません。また、個人を特定するようなことも全くありません。

さらに、アンケートの内容と結果については、授業の改善や充実のために活用する以外には一切使いませんので、ありのままの率直な感じ方、評価等をお答えください。

なお、担当者・教員が複数の授業(オムニバス)については、この授業時までの全体を見渡した感じ方・受け止め方等をお答えください。

問01 以外は「4 そう思う、3 まあそう思う、2 あまり思わない、1 ほとんど思わない」の順となっております。該当するものを1つ選んでマークしてください。

| | | | | | | |
|-----|--|---|---|---|---|---|
| 問01 | この授業(講義・演習・実習・実技)によく出席している 4. 全部出席している 3. 欠席は1~2回 2. 欠席は3~4回 1. 5回(以上)欠席している | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 問02 | シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている | ④ | ③ | ② | ① | ② |
| 問03 | この授業の受講にあたって、事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる | ④ | ③ | ② | ① | ③ |
| 問04 | 課題・発表・レポート・試験準備などに取り組んでいる | ④ | ③ | ② | ① | ④ |
| 問05 | この授業の内容について、十分に理解することができている | ④ | ③ | ② | ① | ⑤ |
| 問06 | シラバスに記載された到達目標を達成できると思う | ④ | ③ | ② | ① | ⑥ |
| 問07 | 教員は熱意を持って授業に臨んでいる | ④ | ③ | ② | ① | ⑦ |
| 問08 | 学生の理解度や反応を考慮して授業を行っている | ④ | ③ | ② | ① | ⑧ |
| 問09 | 教員は、学生の質問や意見に適切に対応している | ④ | ③ | ② | ① | ⑨ |
| 問10 | 教員は、提出したレポートや課題をチェックして学生に返し、授業の理解に役立てようとしている | ④ | ③ | ② | ① | ⑩ |
| 問11 | 教員の授業方法や使用した教材は、授業の内容の理解に役立つよう工夫されている | ④ | ③ | ② | ① | ⑪ |
| 問12 | 教員の話し方、言葉は聞き取りやすい | ④ | ③ | ② | ① | ⑫ |
| 問13 | この授業で扱う量や難易度は適切である | ④ | ③ | ② | ① | ⑬ |
| 問14 | この授業の進め方のペースは適切である | ④ | ③ | ② | ① | ⑭ |
| 問15 | この授業はシラバスの記載に沿って展開している | ④ | ③ | ② | ① | ⑮ |
| 問16 | 教科書、資料(ビデオ、スライド、プリント等)、板書は授業内容の理解に役立っている | ④ | ③ | ② | ① | ⑯ |
| 問17 | この授業から、新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学ぶことができる | ④ | ③ | ② | ① | ⑰ |
| 問18 | 総合的にみて、この授業に満足している | ④ | ③ | ② | ① | ⑱ |

あとがき

“まえがき”に述べたように、この学生による授業評価アンケート調査は、従来各学部単位では行われてきたが、全学統一的に実施したのは、これがはじめてである。

ただし、すべての授業科目を4年に分けて行うこととしたが、アンケートの設問内容については、これまで各学部で行ってきた設問と8割から9割以上が共通しているので、従来の結果と比較しやすくなっている。しかし、やってみて初めて分かる、と言うが、まさにそのような結果も見えているようである。

これを踏まえて、この結果の活用の仕方を、全学で考えて実行していかなければならないが、これもまた初めてのことになる。

新型コロナの感染拡大の迫るなかで、通常の面接授業も危うくなりつつあるが、授業の質と量の確保が、まず問題である。

アンケート調査に協力してくれた学生の皆さん、携わったすべての教員・職員の皆さんに御礼申し上げたい。

なお、本報告書の作成にあたって、データの整理、図表化は本学の電子機器管理センターにて処理した。それらのデータは、二年前に設置された弘前学院大学IR室において管理・運用されることになる。
(大学FD委員会委員長 藁科勝之)

| |
|---|
| 2020（令和2）年度前期 弘前学院大学 「学生による授業評価アンケート調査」実施結果報告書 |
| 編集・発行 弘前学院大学：大学FD委員会 弘前学院大学 〒036-8577 弘前市大字稔町13-1 電話 0172-34-5211（代） FAX 0172-32-8768 |
| 2020（令和2）年10月15日 発行 |